

すすめているか。

③ 相双地区

在学青少年の健全育成をめざす、小中高等学校の一貫した生徒指導はどうあればよいか。

(3) 参加者

① 県中地区 (10名)

小学校教員 2名、中学校教員 4名、高校教員 4名

② 南会津地区 (10名)

小学校教員 3名、中学校教員 4名、高校教員 3名

③ 相双地区 (10名)

小学校教員 3名、中学校教員 4名、高校教員 3名

(4) 県教育委員会(教育庁)からの出席者

開催地区の県教育委員、県教育長、教育次長、関係課長、課主幹及び広報係、開催地区教育事務所長、他

10 昭和53年度教育事情等懇談会

(1) 趣 旨

文教施策や本県の教育事情等について広く意見を求め、教育行政の参考に資するため、教育・学術・文化に関心をもつ有識者による教育事情等懇談会を開催する。

(2) 主催・日時・場所・テーマ

① 主 催 文部省、福島県教育委員会

② 日 時 昭和53年11月10日(金)

③ 場 所 福島県公社会館 4階大会議室

④ テーマ 「福島県の教育に望む」

○学校教育について

○社会教育について

(3) 出席者(○は文部省教育モニター)

小山 侃 福島大学教育学部教授

○田沢 耕平 福島ゴム株式会社総務部長

今泉ヒナ子 桜の聖母短期大学学長

河田 亨 福島民報社編集局長

辺見 和郎 福島民友新聞社編集局長

小林 忠道 福島商工会議所専務理事

宮村 義一 福島県工業クラブ会長

佐々木善男 福島県立高等学校PTA連合会会長

○阿部百合子 福島蚕糸連合会家政女学院教師

菅野 久俊 福島市小中学校PTA連合会長

なお、県教育委員会からは小島哲教育次長、佐藤昌志総務課長、関係各課長、県北教育事務所長、その他事務担当者が出席した。

(4) 内 容

懇談会の内容は、広報誌「教育福島」12月号に特集として掲載し、幼・小・中・県立学校、教育関係機関に配布した。

11 市町村教育委員会広報連絡協議会

(1) 福島県相双地区市町村教育委員会広報連絡協議会

① 趣 旨

教育施策の普及徹底を図るため、教育委員会における広報活動について、効果的な推進方法を研究協議し、あわせて情報交換を行い、教育行政広報の充実に資する。

② 期 日 昭和53年10月5日(木)

③ 会 場 原町市原町合同庁舎会議室

④ 参加者

相双地区市町村教育委員会及び公民館広報担当者23名及び主催者側(本庁・相双教育事務所)5名

⑤ 内 容

○講話「行政広報について」

講師 福島県教育庁総務課広報係長 木下 宇平

○実技指導「親しまれる広報紙のつくり方」

講師 福島民報社整理部長 新田 二郎

○研究協議

司会者

福島県教育庁総務課管理主事 古市 孝雄

事例発表者

相馬郡小高町公民館主事 谷地 英男

双葉郡大熊町公民館主任主査 島 晃重

指導助言者

福島県教育庁総務課広報係長 木下 宇平

福島県教育庁相双教育事務所指導主事

小泉 泰次

(2) 昭和53年東北地区市町村教育委員会広報連絡協議会

① 主 催 文部省・山形県教育委員会

② 期 日 昭和53年10月31日(火)・11月1日(水)

③ 場 所 山形県教育センター、公立学校共済組合
天童宿泊所出羽路会館

④ 内 容

○施策説明「文教行政の当面する課題」

文部省大臣官房企画官 野崎 弘

○講 演「教育広報に望むこと」

山形放送株式会社報道制作局長 高橋 昭

○講 義「記事と見出し一親しまれる広報紙づくりのた
めに」

山形県農協中央会農政部長 高村 健一

○講 演「教育行政における広報」

山形大学教養学部教授 勝又 猛

○実例発表

1 「広報“教育もりおか”を編集して」

岩手県盛岡市教育委員会指導主事

佐々木修治

2 「マス・コミに対する情報提供はどのようにす
ればよいか」

福島県田村郡船引町教育委員会町史編集係長

遠藤 正

3 「教育広報“しんじょう”」

山形県新庄市教育委員会社会教育係長

伊藤 和美

○研究協議

⑤ 参加者

東北6県の教育委員会関係者並びに市町村教育委員会の関係者約60名が出席した。本県からは、県教育庁総務課から1名、町村から3名が出席した。